



天皇ご一家=05年12月16日、皇居・御所(宮内庁提供)

# 皇位継承順位は3位

## 皇室典範改正 論議先送りも

### 「伝統維持派」に勢い

秋篠宮妃紀子さまが産まれた男の子は、皇太子さま、秋篠宮さまに次ぐ皇位継承者となることから、女性、女系天皇を容認する皇室典範改正に向けた政府、与党内の本格論議は「伝統維持派」の勢いが増し、さらに先送りされそうだ。

ただ、社会全体が進む少子化と皇室も無縁ではなく、改正の目的だった安定的な皇位継承をどのように図っていくかという課題は、いざい再浮上する可能性がある。国民合意を形成していくためにも、時間をかけた冷静な議論を継続していくことが求められる。

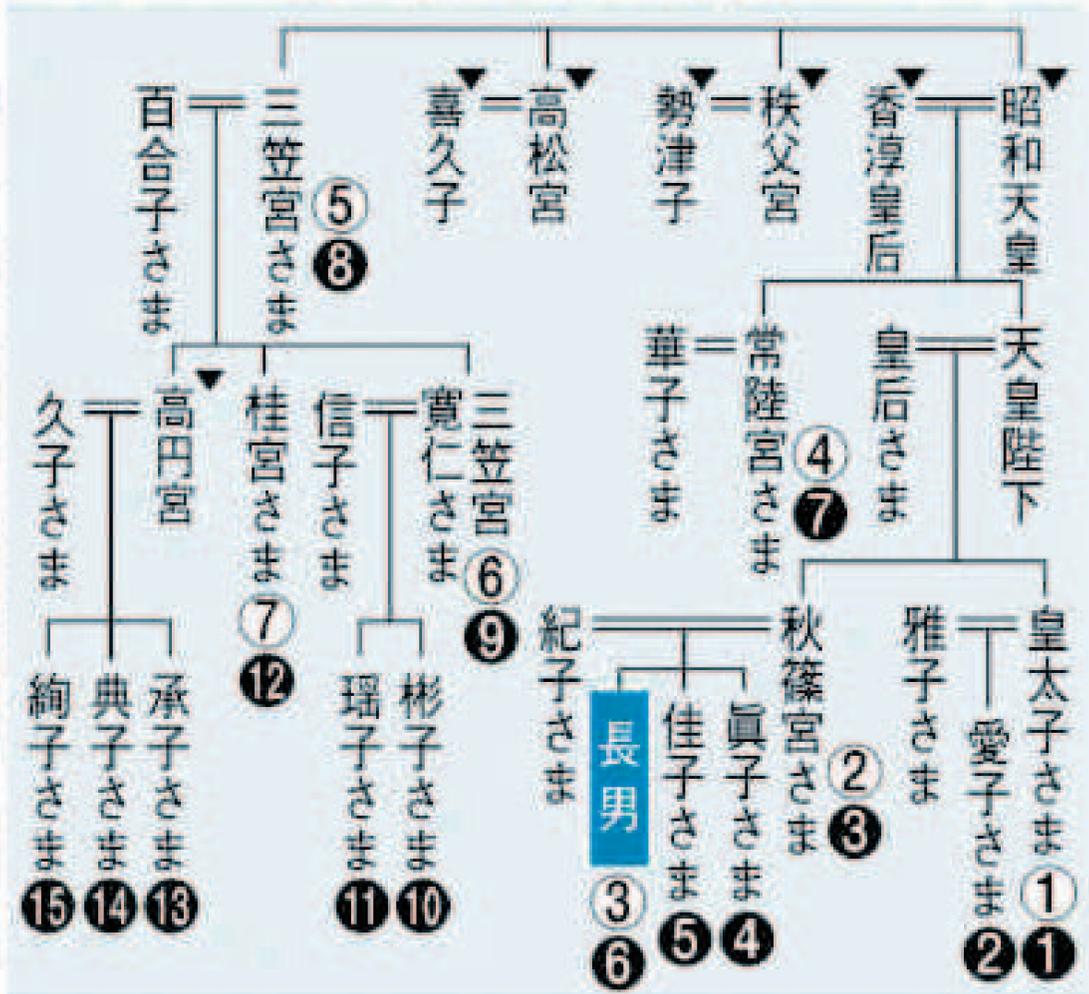
小泉純一郎首相の私的諮問機関「皇室典範改正に関する有識者会議」は昨年十一月、「男系男子」に限定している皇位継承資格を女性と男子の「女系」皇族にも拡大するよう求める報告書を首相に提出。首相は今年一月の施政方針演説で、報告を見る向きが多い。

書に基づくと皇室典範改正案を国会に提出すると明言した。

これに対し自民党内から、男系男子の皇族が継承してきた伝統を尊重するよう求める声が強まり、賛否両論が交錯。そうした中、紀子さまの懐妊が判明すると、小泉首相は「多くの国民が、穏やかに改正が望ましい」という状況で改正した方がいい」と改正見送りに転じた。

ポスト小泉最有力の安倍晋三官房長官は改正先送りを首相に「進言」したことがあり、女性、女系天皇の容認には慎重との見方が強い。自民党内閣部会が六月にまとめた報告書でも、女性、女系天皇容認と現行制度維持との両論を併記する形になった。このため政府、与党内では男子誕生で「国論を二分しかねない」(自民党幹部)皇室典範改正への取り組みを回避するムードが一層強まると見る向きが多い。

### 天皇家、皇族の系図



▼は故人、敬称略。数字は継承順位(白丸は現行。黒丸は女性、女系天皇容認で長子優先)